

## 2. 企画から実施まで

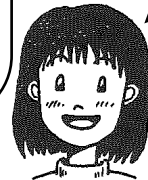
プレスクールの対象者は

「小学校に入学前の、外国につながる子どもたち」です。

- たとえば
- ・日本の幼稚園、保育所、認定こども園に通っている子ども
  - ・外国人向け託児所に通っている子ども
  - ・不就園の子ども

子どもたちの背景はさまざまです。

最初に、子どもと地域の現状を把握しましょう。



### <企画の流れ フローチャート>

実施主体を  
決める

- 実施主体を決めます（例：市町の教育委員会、多文化共生担当課、幼稚園や保育所、認定こども園の担当課、地域のNPO団体等）。
- 関係者（学校関係者、日本語教育関係者、教育委員会や学校、自治体）に連絡をとり、運営に必要な協力を得ます。

実施の準備  
をする

- 運営に必要な人材と役割を決めます。コーディネーター、子どもの指導者、母語スタッフが揃っているとよいでしょう(p.3参照)。
- 開催期間を決めます。対象者と運営側の両方が無理なく参加できる期間で実施しましょう。
- 開催場所を決めます。参加者が集中できる環境であること、また、参加者だけではなく指導者やスタッフの移動や時間も考え、無理のない場所で行いましょう。
- 情報収集を行い、カリキュラムの決定、実施場所の確保、備品の準備をします。

周知する

- 周知の方法と時期を決めます。不就園の子どももいます。外国人コミュニティや外国人住民の支援団体にも協力してもらいましょう。
- 周知する際には、国籍や在留資格への配慮、多様な文化的背景への配慮が必要です。

<運営スタッフと役割>

【実施主体】

- ・運営スタッフおよび他機関との連携、調整を行います。
- ・事前に小学校に関する情報および教育支援制度に関する情報を整理しておきます。
- ・外部からの問い合わせへの対応、参加する子どもに関する個人情報の管理・保護、緊急時の対応も随時行います。
- ・プレスクール終了後には、活動の総括を行い、評価します。日本語指導については、総括の際に外部から日本語教育の専門家等を招き、評価してもらうことが望ましいです。

【コーディネーター】

プレスクールの運営全般の連絡、調整を行います。運営側のカリキュラムとマニュアルに関する共通理解の形成のための調整が必須です。

【指導者】

子どもの指導をメインに行います。学校現場を知っている人がよいです。また、日本語指導に関する基本的な知識があることが望ましいです。指導時は必ず日本語のみで話し、他の言語が必要な場合は、母語スタッフが話すなど言語の役割分担を明確にしましょう。

【母語スタッフ】

おもに保護者をサポートします。プレスクール開催期間中だけでなく、事前の問い合わせ、書類を書く時の手助け、開催の周知、受付にも関わります。また、子どもの様子で気になる点をコーディネーターや指導者に伝えます。

①授業づくり、②教材づくり、③情報の共有

連携

連携先・協力先例	
行政（市町）	外国籍住民、小学校入学年齢に相当する子どもの人数、近隣の幼稚園、保育所の就園状況を把握しています。
幼稚園、保育所、認定こども園	就園園児についての情報・状況を把握しています。
小学校、教育委員会	次年度入学する子どもの情報・状況を把握しています。また、支援制度等について把握しています。
学童保育等の団体	留守家庭の児童を受け入れる施設です。
外国人向け託児所	外国につながる子どもが在籍しています。
外国人コミュニティ	来日したばかりの子どもや不就園の子ども情報が手に入りやすいです。
外国人支援団体	
外国人雇用企業	子どもの保護者が勤務する企業にも協力を得るとよいでしょう。

## <実施準備 チェックリスト>

	内容	参照ページ
<input type="checkbox"/>	開催期間が決まっている。	p.2「実施の準備をする」
<input type="checkbox"/>	運営スタッフの人数と役割が決まっている。	p.2-3
<input type="checkbox"/>	だれが・いつ・どのように・どうやって・どんな情報を集め、 どうやってまとめるかが整理され、役割分担されている。	p.3
<input type="checkbox"/>	運営に十分な情報が集められている。	p.3-4
<input type="checkbox"/>	適切な実施場所が決まっている。	p.4「(1)実施場所の決め方」
<input type="checkbox"/>	備品が漏れなく準備できている。	p.4「(2)準備するものの例」
<input type="checkbox"/>	どこに周知するか（連携先・協力先）や募集の方法が決まっ ている。	p.2-3
<input type="checkbox"/>	関係各所への周知と募集の方法、日程が決まっている。	p.2「周知する」
<input type="checkbox"/>	関係各所への案内が漏れなく行われている。	p.3「連携先・協力先例」

## <実施のポイント>

### (1) 実施場所の決め方

適切な実施場所を選ぶ際は、①通いやすい場所か、②期間中継続して同じ一つの場所が使用できるか、③参加者・運営スタッフの会場までの移動時間に無理がないかを考慮に入れなければなりません。例えば、幼稚園、保育所、認定こども園、外国人向け託児所、公共施設（公民館、公営住宅の集会所など）、小学校等が使われています。

### (2) 準備するものの例

必要な教材、教具、備品は、実施主体があらかじめ準備しておきます。次のようなものを準備しておくといいでしょう。カリキュラムが実施できる教材、教具、子どもに適切なサイズの机、いす、パソコン、プリンター、電話、FAX、文房具、教材、書籍、音声再生用プレイヤー、ホワイトボード、ファイル、連絡帳、案内書（募集資料）等

### (3) 以下についても、役割分担や対応を事前にしっかり決めておきましょう。

- ・ 不測の事態への対応
- ・ 緊急時の保護者への連絡方法
- ・ 個人情報の管理
- ・ 通学路、教室内での事故に対する保障
- ・ 就学援助の手続きや支援制度に関する制度的な情報の収集と整理…申請の方法、申請期限は必ず把握しておきます。

<ワークシート：プレスクールを始めよう！>

「2. 企画から実施まで」(p.2-4)の内容を元に、プレスクールを始めましょう。実施のために必要な情報を以下の空欄に記入してください。記入例は、次ページ以降(p.6-7)を参考にしてください。

★実施主体：

---

対象となる子ども	
開催期間	
開催場所	
運営スタッフ	コーディネーター： 指導者： 母語スタッフ：
備品の準備	
連携先・協力先	

★スケジュール

時期	
月	
月	
月	
月	
月	

<例： 松阪市 就学前支援教室「ふたば」の場合>

★実施主体：松阪市教育委員会

対象となる子ども	松阪市内在住の外国につながる小学校入学予定児
開催期間	1月から3月までの土曜日 10:00 から 11:30 まで 計 11 回
開催場所	松阪市子ども支援研究センター
運営スタッフ	松阪市教育委員会 指導主事 1～2 人 コーディネーター 1 人 日本語指導員 3 人（常時 2 人） ふたば参加者の母語に対応した母語スタッフ ふたばボランティア（1～2 人）
備品の準備	費用は松阪市が負担 教材の準備や教具の製作はコーディネーターと指導員が行う
連絡先・協力先	市内の幼稚園、保育所、認定こども園、小学校

★スケジュール

時期	
8月下旬	松阪市に住所を置く、次年度小学校入学対象の外国籍の子どもがいる家庭へプレスクールの案内、参加申込書を送付する。
9月上旬	保育園長会、幼稚園長会にて、プレスクールの目的や内容を伝え、園からも対象となる園児の保護者へプレスクールについて周知していただくよう依頼する。
	対象となる子どもが入学する小学校へ、プレスクール案内、参加申込書を送付し、就学時検診等で対象となる子どもの保護者に知らせていただくようお願いする。

9月～11月	<p>【参加者について調査をする】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名前の表記、読み方、園での呼び名</li> <li>・国籍、母語、来日時期、在園期間、日本語の習得状況</li> <li>・生活面（集団生活での様子、気になること、配慮すること）</li> <li>・「ふたば」教室までの送迎についての確認(必要があれば母語スタッフが直接連絡する。)</li> </ul> <p>※在園していない子どもたちに関しては、母語スタッフを通じて保護者に電話連絡をし、可能な範囲で確認をする。</p>
12月	入級準備・教材や教具の準備確認
1月～3月	実施

#### 運営スタッフの役割と準備

##### <コーディネーター>

【準備】・就学前支援教室「ふたば」についての保護者向けの案内

- ・入級前の子どもについての聞き取り調査
- ・カリキュラムと指導案の作成

【教室での役割】・保護者向け説明会の実施

##### <指導員>

【準備】・指導案の確認とコーディネーターとの打ち合わせ

- ・教具作り

【教室での役割】・子どもへの指導

##### <母語スタッフ>

【準備】・就学前支援教室「ふたば」について、保護者向けの案内をする際の通訳

(必要に応じて)

- ・子どもについての聞き取り調査の通訳

【教室での役割】・保護者向け説明会や保護者への案内時の通訳

- ・子どもへの通訳は子どもの日本語レベルに応じて行う